



syoun



3

2020 March

No.571

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第2カテーテル室リニューアルのお知らせ



当院は、2014年（平成26年）から新しい病院となり、名称も人吉総合病院から人吉医療センターに変わりました。同時に循環器内科も新しい体制となりました。当時は私（中村）・堀尾医師・六反田医師の3人で、急性期循環器医療をそれぞれ必死になって守っていました。メディカルスタッフの協力もあり、徐々に急性期循環器医療体制が整ってくると（door to balloon timeは77分から60分に短縮できました）、熊本県の人吉・球磨地域ばかりではなく、宮崎県のえびの市・小林市、鹿児島県の伊佐市・湧水町からも急性冠症候群症例を任せいただけるようになりました。そうすると、一つの心カテーテル室だけでは症例をさばききれなくなります。そこで、木村院長に無理を言って、当院の放射線科と脳神経外科が木曜日の午後に使用していた血管造影室に、12誘導心電図と動脈圧のモニタリングが可能なポリグラフを導入し、心臓カテーテル室としても使用可能にしたのが、2015年（平成27年）でありました。2つのカテ室を使用することで順調に症例数も増えてきましたが、汎用機で行う心臓治療には、やはり限界がありました。そこで、今回、血管造影室の汎用機を変更

し、Phillips社製の最新鋭機 Azurion7B 20/12（Front大口徑、lateral小口径、のbiplane）を導入しました。今までは、腎機能が不明な緊急カテの場合、シングルプレーンである第2心臓カテーテル室は使いにくかったのですが、biplaneを導入したことにより、より少量の造影剤での手技が可能となります。つまり、今まで以上に当院の心血管病に対する対応力が向上すると思われます。また、最新鋭機は従来機と比較して、必要な放射線量も半分以下となりますので、つまり、被ばく量の大幅な低減により、患者さんばかりか我々医療従事者側にもメリットが大きくなります。さらに、今まで操作室側にあった放射線技師さんの当直室と血管造影室の機械室を取り壊し、操作室側のスペース拡充をしました。メディカルスタッフを含めたカンファレンスなども行えるようになり、更なるレベルアップにつなげたいと思います。当院で6年一緒に働いて頂いた六反田医師が3月で異動になるのは寂しいのですが、新しいカテ室と新しい2人の循環器内科医師を迎え、増員となる5人体制で頑張っていきたいと思います。

循環器内科 中村 伸一

InBody を導入しました

InBody とは体成分分析を測定できるものです。

細胞内外水分の均衡が崩れている方でも全体の水分量を正しく測定することで、性別や年齢などの統計的な情報で体成分の結果を補正することなく、見逃しやすい僅かな成分まで感知します。

InBody で体重はもとより筋肉量・脂肪量、肥満度指数（BMI と体脂肪率）、部位別筋肉量・部位別脂肪量、体重調整量、栄養評価（タンパク、ミネラル、体脂肪量）、骨格筋量、基礎代謝量など、より正確に身体の状態を知ることによって生活習慣の見直しになればと思います。

測定時の注意事項としてペースメーカーやホルター心電図等を装着した患者さんは検査できません。人工関節、義手・義足での測定は測定値に影響を及ぼします。また、体内の残余物が結果に影響を与える恐れがあるので食後2時間以上あけ、トイレを済ませてから測定します。金属類も測定に影響を与えるため外して測定します。

保険点数は慢性腎臓病や溢水・脱水で60点になっています。



臨床検査部 田中 幸樹

ハイパーサーミア温熱療法

ハイパーサーミアとは電磁波を用いてがん細胞を加温することでがんの縮小や放射線治療、化学療法（抗がん剤治療）、免疫療法の効果の増強を目的とするがんの治療方法の1つです。当院では、2017年7月に装置の導入と治療を開始しています。

治療実績は2018年では約300回、2019年では約550回と年々、数を増やしています。治療時間は1回50分で着替えや準備などを含めると、約1時間半程度で治療が終わります。治療部位をボラスと呼ばれる専用の水の入ったマットのようなもので挟んで温めていきます。その為、治療中は治療部位を動かすことはできませんが、治療部位以外の場所はある程度は動かすことができますし、会話もできます。実際の治療では、患者様と相談しながらスタッフが温度の調整を行っていきます。

ハイパーサーミアの利点として他の治療より副作用が比較的小さい点があります。50分寝ていなければならないことや、暑さに耐えなければならないこと、暑さによる軽い痛みなどはありませんが、吐き気や強い痛みなどはありません。スタッフも患者様がつらくなく治療できるようサポートしていきます。



また、保険適用で1クール（最大8回）の治療が27000円で受けることができることも大きな利点です。（3割負担の方で27000円です。治療部位などに応じて若干前後します。）

がんの治療方法は手術、抗がん剤、放射線治療など様々な手段がありますが、当院では、高気圧酸素療法、そしてハイパーサーミア温熱療法を組み合わせ、患者様の病状、生活に合った治療を提供してまいります。

画像診断センター 診療放射線技師 中西 節

ロックス・インデックスのご案内

予防医療センターでは、2019年6月より、ロックス・インデックス検査を実施しております。現在までに18名の方に検査を実施させていただきました。ロックス・インデックス検査とは、将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを予測する血液検査です。生活習慣の見直しを行うひとつのきっかけにもなります。人間ドックや生活習慣病のオプション検査として、また、単独でも実施可能です。検査は予約制になります。ご希望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。



お問い合わせ 予防医療センター：0966-22-7070

選定療養費について（紹介状なしで受診される患者さんの負担金について）

令和2年の診療報酬改定により、許可病床200床以上の地域医療支援病院では他の医療機関からの紹介状なしに受診される患者さんに対し、初診時5,000円以上、再診時2,500円以上の金額を徴収することが義務となりました。当院は許可病床252床の地域医療支援病院で、これに該当します。

『選定療養費』とは、病院と診療所の機能分担の推進を図るため、国が定めた制度です。この制度にもとづき以下のとおり徴収させていただきますので、ご理解をお願いいたします。

	料金（税込）	開始日
初診時選定療養費	5,500円	令和2年4月1日
再診時選定療養費	2,750円	令和2年4月1日

『初診時選定療養費』

初診の際、他の医療機関等からの紹介によらず受診された場合に徴収いたします。但し、緊急その他のやむを得ない事情の場合はこの限りではありません。

『再診時選定療養費』

担当医師が他の医療機関へ紹介を行う旨の申し出を行なったにもかかわらず、引き続き当院での受診を希望される患者さんについては通常の医療費とは別に、受診の都度徴収いたします。

時間外選定療養費について（時間外・休日に受診される患者さんの負担金について）

『時間外選定療養費』は、地域の皆様に当院の診療時間外の適正利用をお願いすることにより、地域医療を守り、救急医療を存続させることを目的にご負担いただきます。救急医療の本来の使命は、入院等が必要な重篤な方の治療を目的としていますが、現状では緊急性が認められない時間外受診も数多く見受けられ、医師の業務負担も増大しています。

よって、時間外の救急外来診療においては、緊急性のない病状もしくは重篤な病状でない方について、当院での受診を控えていただくこととし、下記の特別料金のご負担をお願いすることといたしました。

	時 間	料金（税込）	開始日
時間外選定療養費	平日 18:00～翌 8:00 土祝休日年末年始 全日	5,500円	令和2年4月1日

医事課

看護部長 挨拶

人吉医療センターに赴任して～3年がたちました・・・～



3年前に突然、忘れもしません平成29年2月24日、前病院長からの一報。「看護部長！転勤ですよ！人吉に～」「誰がですか？」と聞き返した私に、「看護部長あなたですよ！」とまさしく青天の霹靂、頭の中が真っ白になったのを覚えています。どうしよう、何をしたらいいのか、しばらく放心状態でしたが、切り替えの良いのが取り柄。『人吉イコール温泉』が一番に頭に浮かび、温泉三昧を満喫できると期待は広がりをみせました。

しかし、赴任させていただき人吉医療センターの地域での役割を知れば知るほど身が引き締まる思いになり、不安のほうが大きくなっていったことが思い出されます。今までの病院は、地域の中核病院でしたが、周りに大学病院や800床を超える公立、私立病院がひしめく地域でその隙間を埋めるためには、私たちにできることは何かなど模索しながら地域貢献を考えていました。しかし、人吉医療センターは、地域包括ケアシステムの要、中心として常に先頭だって実践していかなければならない立場です。

救急医療においても、県境に位置しているため3県の医療圏を担う立場でもあります。

このような病院に私が務まるか？しかし、とても、優秀な人材豊富な人吉医療センター。

このような私を温かく迎え入れていただき、どうにか

務めを終えようとしています。

3年とは長いようで大変短く、しかし、何か残すことはできたのか？と考えますと・・・

やはり、私には人と人の繋がりを大事にすることかなと思いました。できるだけ地域の医療機関の看護部長との連携や訪問も行い、医療センターを身近に感じ取っていただきたいと思います。看護学校においても一緒にです。地域に貢献している病院の素晴らしさをできるだけ発信しこの病院で働きたいと思って就職していただきたいと思っていました。

また、訪問看護ステーションの開設は真の意味での地域包括ケアの要になれたとも思いました。

皆さん！外から来た私が偉そうに言うのは何ですが、皆さんの医療・看護はほかに引けを取りませんよ。本当に素晴らしいことをしていると自信をもってこれからも、医療の水準を落とすことなく頑張ってください。このような私を3年間見守っていただきありがとうございます。人吉で培ったものは糧となり実を結んでくれると信じています。次に、お会いできるとき更なる成長？が出来ていると思っていただけたら幸いです。

私の座右の銘は『継続は力なり』です。皆さんとの繋がりが私の力！これからも宜しくお願いします！

看護部長 入部 直子

五木診療所 所長挨拶

今年度の2019年4月から五木村診療所所長を務めさせていただきました堤龍子です。2020年3月をもちまして異動となりましたので、ご挨拶を申し上げます。

本年度は、自分が妊娠と出産を経験することとなり、ここでの診療の日々は特に忘れられない1年となりました。また、現地での診療は半年間だけの活動となってしまう、その後のフォローは関係者の方々に色々とお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

五木村診療所は、いわゆるへき地の医療施設としてはとてもきれいで、施設も充実した素晴らしい施設でした。また、患者

さんも診療方針に理解を示されており、スムーズな治療が行える場所であったと感じています。

五木村にはその前の年から訪れる機会も多々ありましたが、訪れるたびにキャンプ場や歴史資料館といった新しい設備が建設され、地域全体の雰囲気が洗練されていくのを感じました。まだまだこれからも発展していきそうなこの土地の活気に驚くと同時に、自分も多くの元気を頂きました。

短い期間でしたが、非常にやりがいのある診療活動となりました。ここでの経験を活かし、また次のへき地医療での診療に繋げていきたいと思っています。



総合診療科
堤 龍子

研修医挨拶



人吉医療センターで2年間研修をさせて頂きました、石内聡一郎です。

学生の頃実習で回って来た際に何となくで研修先を選んだ病院でしたが、実際に働いてみると皆さん人々が良く優しく、同期にも恵まれ、たくさんのことを経験でき、楽しく充実した2年間の研修を終えることが出来ました。こんな僕を(おそらく)人並みの医者として育てて下さり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは熊大の放射線科に入局し、大学病院での勤務になります。

人吉で学んだことを生かし、しっかりと臨床の視点を持った放射線科医になれるよう日々精進していきます。狭い業界ですので、この先まだどこかで会うこともあるかと思います。研修医メンバーの中では比較的影の薄い僕ですが、再会した時は少しだけ思いだして頂けると幸いです。

最後になりますが、この2年間、先生方や病院スタッフの方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

臨床研修医 石内 総一郎



国家試験に合格し、医師としてのスタートを切って早くも2年が経とうとしています。人吉での研修は、本当に充実したものでした。熱心に指導してくださる先生方や、様々な分野で支えてくださった相談に乗ってくださるスタッフの方々には、心から感謝しています。辛いことがなかったと言える嘘になりますが、皆様に温かく見守られながら日々成長し、楽しく研修医生活を送ることができました。

想像以上に多かった飲み会、美味しいご飯とお酒、仲間と遊んだ日々が私の人吉での生活をより一層充実させました。

気がつけば人吉が大好きになっており、今はここを立つことが寂しくてたまりません。4月からは熊本大学病院の消化器外科に入局します。新しく環境は変わりますが、人吉医療センターでの研修で学んだことを生かし、更に精進していきたいと思っています。

ご縁があり、いつかまた人吉で働けることを楽しみにしています。その際はよろしく願います。

2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

臨床研修医 耕 佳徹



2年間大変お世話になりました。特に何も考えずに人吉での研修を選んだのですが、指導医の先生や周りのスタッフ、頭のおかしい同期に恵まれ、非常に有意義に過ごす事ができました。

今後は熊大の病理部に進みますので、いつか皆さんの組

織を見る事があれば一生懸命診断する所存です。

人吉の朝の霧、昼の雨、夕暮れの球磨川は大変素晴らしかったです。今までありがとうございました。

臨床研修医 田中 一仁



基幹型臨床研修医の大西啓志朗です。2018年4月に入職させて頂き、2年が経ちました。入職当初は何もわからず、ご迷惑をかけることが多々あったと思いますが、厳しくも優しく指導していただき、少しは成長できたのかなと思っています。

4月からは鹿児島大学の整形外科に入局し、整形外科医としての第一歩を踏み出します。

勤務は米盛病院なので、もしかしたらドクヘリに乗って人吉まで飛んでくるかもしれません。そのときは優しく接してください。

全く縁がなかった人吉ですが、いろんな方々に優しくしていただき、人吉が大好きになりました！

いつか恩返しできればと思っています！

2年間本当にありがとうございました。

臨床研修医 大西 啓志朗



初期臨床研修医として2年間お世話になりました。出身も大学も長崎であり、突然現れた私を温かく迎え入れてくださった人吉の方々には感謝しております。

厳しくも優しいご指導のおかげで多くのことを学ばせていただきました。皆さんのサポートがあり、とても良好な環境で過ごすことができたと思っています。

来年度からは埼玉県上尾中央総合病院の内科専門研修プログラムで

専攻医として勤務し、循環器内科医を目指して勉学に励みたいと思います。遠方になり寂しくはありますが、新天地で寂しさを忘れるほど忙しく働く予定です。人吉の時と変わらず、真面目に丁寧に診療に励むつもりです。研鑽を積んで、再び皆さんと会える時を楽しみにしております。2年間ありがとうございました。

臨床研修医 宮崎 至



協力型研修として1年間人吉医療センターで研修させていただきました1年目の森遼介です。医師として1年目ではわからないことだらけでご迷惑をおかけしたにもかかわらず支えて頂いた上級医の先生方、スタッフの皆様にご挨拶申し上げます。人吉医療センターでは救急外来を研修医と上級医の二人での当番となっていますが、いろいろな科の先生方と当番をすることでまだ研修でまわっていない科のことも多く教えて頂け

ました。上級医の先生とも相談しやすいのは人吉医療センターならではだと思っており、人吉を離れることを名残惜しく感じています。この1年で経験したことをフィードバックしてこれからの医師としての生活に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

臨床研修医 森 遼介

助産師外来に向けて準備をしています

当院産婦人科外来で4月から助産師外来を始める予定です。助産師外来とは、正常な経過の妊婦さんの健康診査と保健指導を、助産師が自立して行うものをいいます。妊婦さんの多様なニーズに応え、地域における安全・安心・快適なお産の場を確保するとともに、産科医師の負担を軽減することを目的としています。

助産師が交代制で担当し、一人一人の妊婦さんに寄り添い、妊娠や分娩に対する不安を和らげ、母乳育児や赤ちゃんのお世話がうまくいくようにアドバイスしていきます。またお産の体験が満足いくものになるようにバースプランを考えていきます。

お一人あたりの診察時間は、十分にお話を伺えるよう

に60分間を設定しており、医師の診察時にはなかなか聞けなかったことでも気軽に相談できます。

エコーで赤ちゃんの様子をみることもできますので、ご家族の方も同席することができます。また今まで通り医師の診察を受けることもできます。

医師との連携を図りながら、助産師の専門性を生かしたサポートができるよう努めていきたいと思っています。

産婦人科医師 瀬戸 雄飛

助産師 嶽本さおり 森妙子 宮川智美
小崎麗子 松田晴香 矢立智春

特別臨床実習 - 外科 -

今回、消化器外科実習の一環として、人吉医療センターの外科にて1週間の実習をさせていただきました。地方の中核医療機関の外科ではどのような医療が行われているか、大学病院とはどのような違いがあるのかという事を学びたいと考え、今回人吉医療センターでの実習を希望させていただきました。

実習では、胆摘、横行結腸内視鏡的切除、S上結腸切除などの消化器分野の手術だけでなく、乳がんの部分切除、静脈瘤抜去術などの様々な手術に入らせていただきました。熊本市、鹿児島市、宮崎市などの各県の中心部から均等に離れた人吉市に、このように様々な手術を行う事のできる人吉医療センターがある事は、球磨地方の医療を支えるために大切なことだと改めて感じました。

また手術の際には、埋没縫合などの手技を実践する機会を何度も作っていただき大変勉強になりました。手技の実践をした事はほとんどなかったため、貴重な時間でした。

外科の先生方や研修医の先生方にアドバイスをもらいながら手技をするうちに、もっと上手くできるようにになりたい、外科は面白いと思うようになりました。

今回、先生方に丁寧に楽しく教えていただきながら、様々な手術に入り、手技を実践する事で、外科分野への興味が強くなりました。また美味しい食事をご馳走になったり、温泉に案内していただいたりして、実習時間外にも充実した時間を過ごすことができました。人吉医療センターで実習できて本当に良かったです。今回お世話になった方々に、心よりお礼申し上げます。

熊本大学医学部医学科5年 渡真利 紫音



連載 入院時支援 Vol.3 メディカルソーシャルワーカー（MSW）編

入退院サポートセンターでは、患者さんが安心して入院いただき、安全で計画に沿った治療、退院ができるよう、入院前にスクリーニングをおこない、リスクと判断された事柄を中心に入院前から退院後の生活を見据えたサポートを開始します。

入退院サポートセンターが稼働する前は、整形外科の予定入院や外来診療時のスタッフの気づき、患者さんからの訴えがあった方を中心にMSWは入院前介入していましたが、現在は入院予定の患者さんのほぼ全てにスクリーニングを行うことで、早期に多くの患者さんを把握、支援介入することができるようになりました。

MSWの入院前介入では、術後の日常生活動作（ADL）の低下が予想される方に介護保険の案内をおこなったり、ケアマネージャーと入院前に連絡をとり、退院後増加が見込まれる介護サービスを早めに調整するなどが具体的に挙げられます。また、治療に伴い仕事を休職せざるを

えない患者さんに社会保障制度の説明や手続きのお手伝いをおこない、経済的な不安を軽減させるなどの役割も担っています。

入院時支援を行うことで、予定入院の患者さんがスムーズに退院ができるようになれば、その分を緊急入院や予定外の入院で不安を抱えておられる患者さんや環境調整が必要な患者さんへの支援を充実させることも可能となります。

これからも、時代とともに変化するニーズをいち早くとらえ、患者さんが安心して療養できる環境を提供できるよう取り組んでまいります。



医療福祉連携室 岡本 理恵

やってみよう ACP (アドバンス ケア プランニング) !!

アドバンス ケア プランニングとは、もしもの時に備えて受けたい医療やケア、生き方について自分の希望や想いを家族や大切な人と話し合っておくことをいいます。厚生労働省の調査では、もしも（命の危機が迫った状態）の時、約70%の方が意思決定不可能な状態にあるとなっており、多くの方が最後はご家族を含む自分以外の人に最後の迎え方の判断を委ねていることになります。

命に関する判断を委ねられるということは、委ねられた人にとって精神的に大変負担の大きなことです。予め、ご家族や大切な人と最後までどう生きたいのかを話し合っておくことで、精神的な負担を軽減し、今自分が何をしておかなければならないのかを明らかにすることができます。

ACPを始めるには、まず身近なことから話し合ったり、市販の終活ノートを利用する方法もありますが、家族や大切な人と話し合うきっかけとして、「もしばなカード」というツールがあります。「もしばなカード」の1セットには36枚のカードが入っており、そのうち35枚には、重病のときや死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉が書いてあります。そ

のカードの中から、自信が大切にしたいことを選び出し、その理由を考え、話し合うというものです。

当院のACPチームのスタッフでもやってみました。それぞれの選び取ったカードには、死生観やおかれた立場などが反映され、非常に興味深い結果でした。

「もしばなカード」は介護用品のショップや雑貨屋などで取り扱われています。

また、日本でももしばなカードを翻訳された、一般社団法人 Institute of Advance Care Planning のホームページを覗いていただくと詳しい情報が記載されています。

もしばなカード、ぜひご家族や大切な人と挑戦してみてください。

医療福祉連携室



5名の先生が研修を修了されました

3月13日（金）、人吉医療センター卒後臨床研修管理委員会・臨床研修修了判定会議において、平成30年度臨床研修プログラムの5名の研修医の先生方の研修が修了と判定されました。2年間の初期研修を終え、これからそれぞれの病院で将来希望する診療科の専門医プログラムへと進めます。人吉で培った経験を生かし、精一杯頑張っていたいだきたいと思ひます。そして、またぜひ人吉医療センターに帰ってきてください。お待ちしております。



消防訓練を実施しました

今年度は3月11日（水）予防医療センター1階で夜間講習会中に火災が発生した想定で、消防訓練を午後1時30分から新入職員をはじめ約40名の職員が参加しました。訓練内容は、火災探知器に熱を加えて火災報知盤に反応させる所からスタートしました。

初期消火・通報・避難訓練終了後、屋内消火栓・消火器の取り扱い説明と実務訓練を行い終了となりました。



消防署より初期消火の大事さと日頃からの避難器具（階段降用非常器具・非常救助袋・担架）の設置場所の確認の話がありました。

消防署の指導として消火器の取扱において

- ・部屋で実際消火器を使う場合、粉の散布により周囲がわからなくなるので、自分の避難経路を確認してから操作すること
- ・放射距離は5mあたりから放射すること。火元に近いと風圧で炎が周囲に散乱してしまう
- ・炎が天井に到達するようであれば、初期消火をやめ避難をすること

☆普段使用することのない消火器や屋内散水栓、少人数でも有効な階段降用非常器具が各階に設置してあります。いざという時に素早く対応できるよう、日頃から設置場所や使用方法の確認をお願いします。

経理課 井口 啓治

おひな御膳



3月3日、女の子が健やかに成長しておひな様のように幸せが訪れる事を願う行事であるひな祭りがありました。今年も栄養管理室からはひな祭り料理をご用意させて頂きました。

ちらし寿司をメインに鶏肉の梅照り焼き、お浸し、旬の菜の花汁、ひなあられを提供致しました。ちらし寿司は様々な具材を混ぜ合わせて作りますが、これには将来食べるものに困りませんようにという願いが込められています。患者さんからは「かわいいあられを見て心が明るくなった」、「自宅でおひな様を飾り付けていた事を思い出し、昔話に花が咲いた」など喜びの感想を頂きました。

入院中少しでも季節感を味わっていただけるよう、今後も行事食や日々の食事提供に努めていきたいと思ひます。

栄養管理室 菰田 衣里子

